

1 松浦川の概要

1.1 流域及び河川の概要

松浦川は、その源を佐賀県武雄市山内町青螺山（標高 599m）に発し、鳥海川等の支川を合わせながら北流し、唐津市相知町で厳木川を合わせ、下流平野部に出て徳須恵川を合わせ、その後は唐津市中心市街部を貫流し、玄界灘に注ぐ、幹川流路延長 47km※、流域面積 446km² の佐賀県北西部最大の一級河川です。

※：幹川流路延長とは、松浦川本川筋の源流から河口までの長さです。

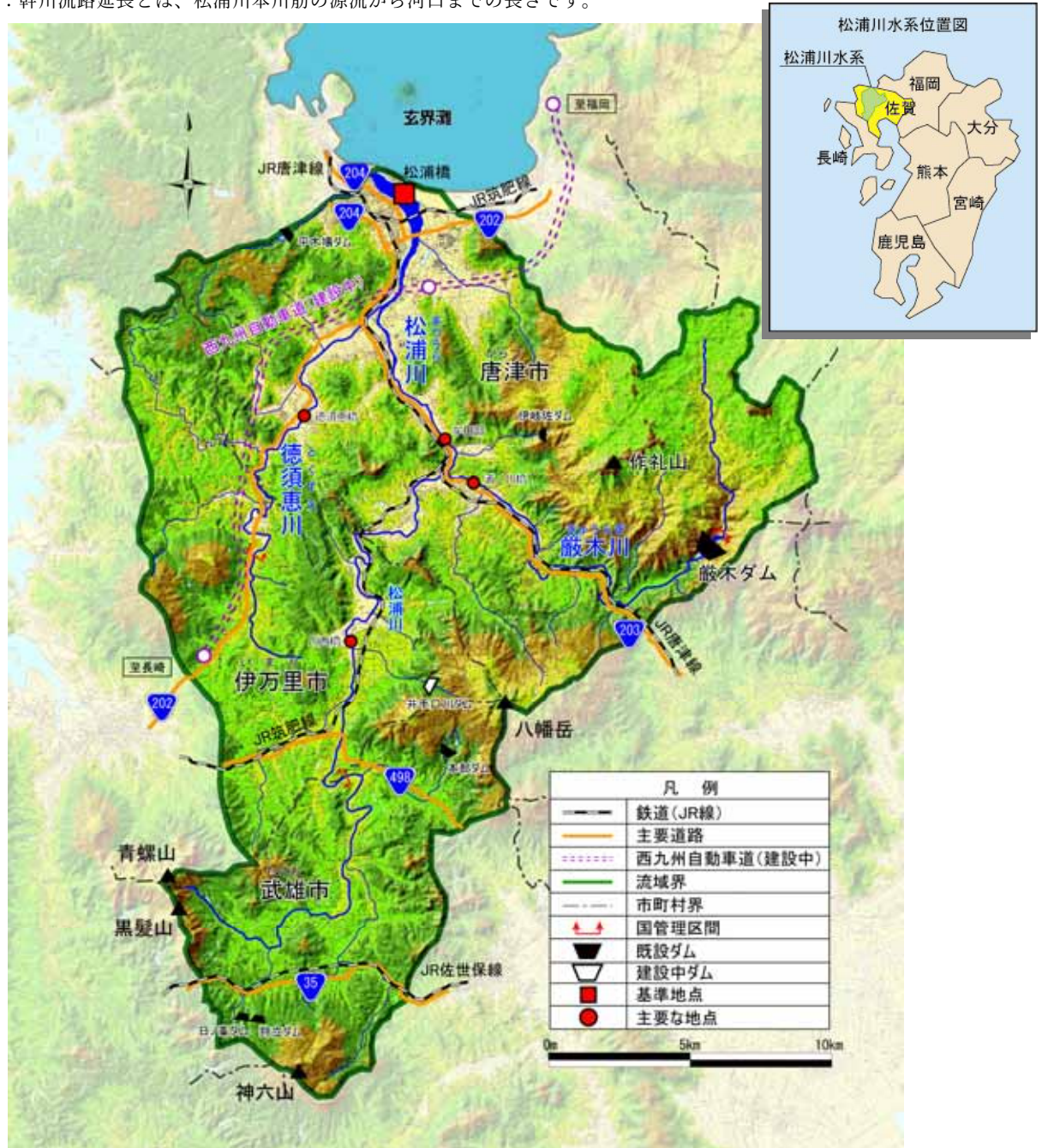


図 1.1.1 松浦川水系流域図

松浦川は、唐津、伊万里、武雄の 3 市にまたがる佐賀県北西部最大の河川です。

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

松浦川流域は、唐津市をはじめ、伊万里市、武雄市の3市からなり、流域内人口※は約10万人を数えます。流域の土地利用は、山地等が約84%、水田や畑地等の農地が約15%、宅地等の市街地が約1%となっています。

松浦川流域内には、流域内人口の約5割が集中する唐津市があり、沿川には、JR筑肥線、唐津線、国道202号、203号等の基幹交通施設に加え、西九州自動車道が整備中であるなど、交通の要衝を成しており、この地域における社会・経済・文化の基盤を形成しています。また、豊かな自然環境に恵まれていることから、松浦川は、古くから人々の生活、文化と深い結びつきを持っています。

※：流域内人口については、河川現況調査（調査基準年 平成7年度末） 平成15年3月 九州地方整備局より



写真 1.1.1 唐津市街地を貫流し、玄界灘に注ぐ松浦川

1.1.1 流域の自然的状況

(1) 地形

松浦川は、脊振山地や丘陵地に囲まれ、河口部が虹の松原を有する玄海国立公園に指定されているほか、黒髪山県立自然公園等があります。松浦川および徳須恵川は、標高が約 400～500m の山地を源流としており、河床勾配は約 1/500～1/10,000 と比較的緩勾配です。一方、厳木川は、作礼山（標高 887m）、八幡岳（標高 764m）と比較的高い山地を抱えており、河床勾配は約 1/50～1/500 と急勾配になっています。

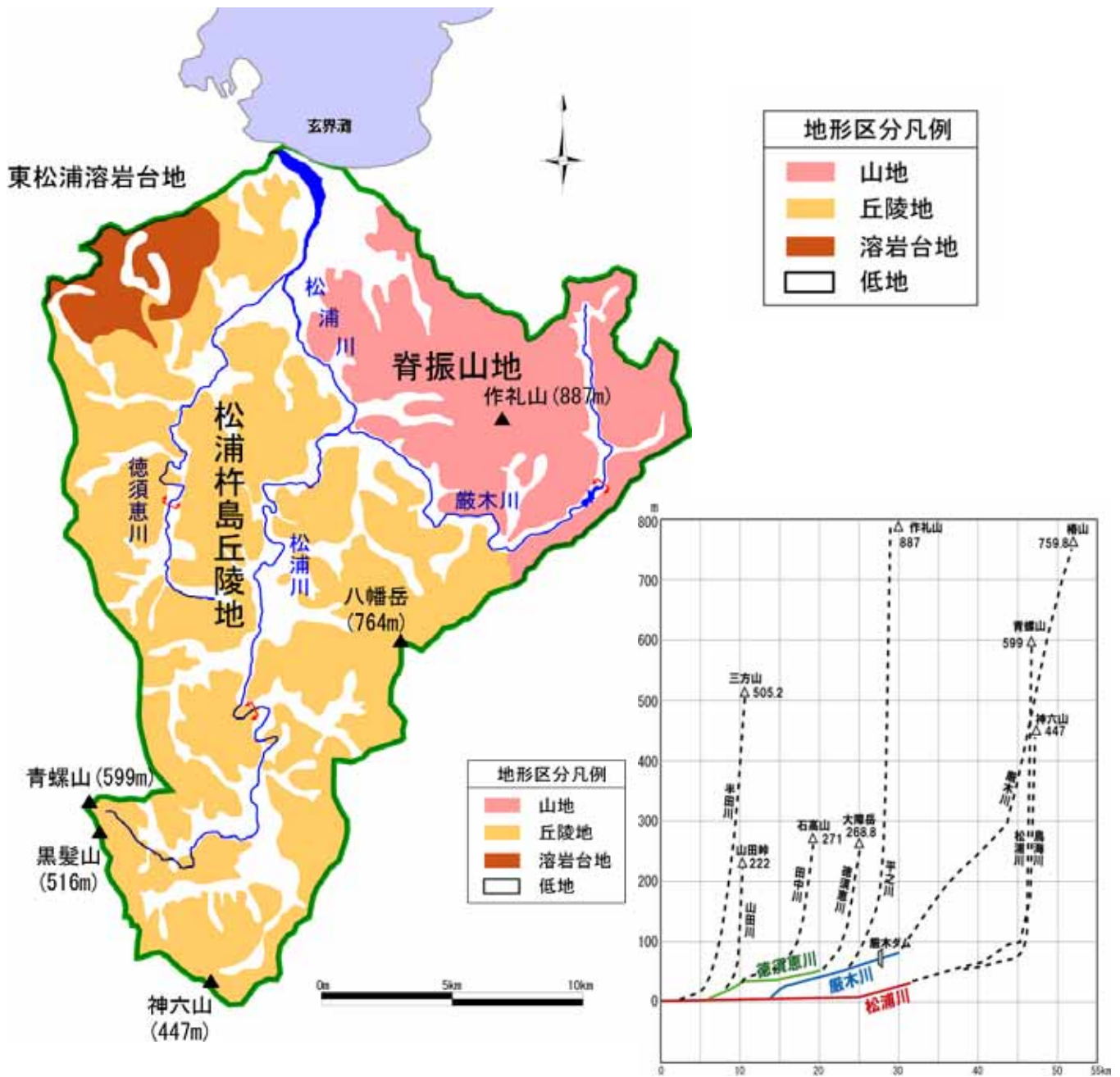


図 1.1.2 松浦川水系地形区分図

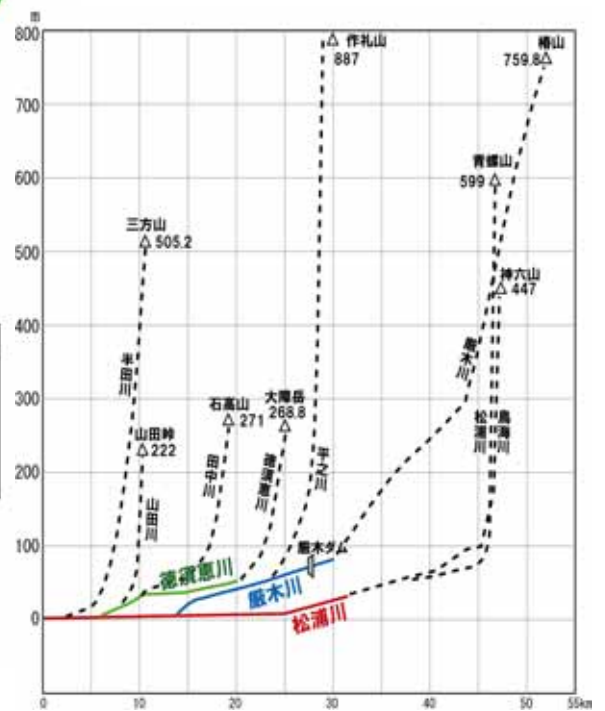


図 1.1.3 松浦川水系河床縦断面図

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(2) 地質

松浦川流域の地質は、松浦川上流域から、徳須恵川上流域の大部分は古第三紀層に属しており、岩石は、^{さかひ}砂岩・^{けつがん}頁岩が主で、まれに^{ぎようかいがん}凝灰岩・^{れきがん}礫岩が見られます。岩層は一般にやわらかく、侵食も早く進み、丸みをもった低い丘陵地になっています。一方、松浦川下流域の山地および厳木川流域は、中生代に生成された^{ひがしまつうらかこうがん}東松浦花崗岩が大部分を占めています。

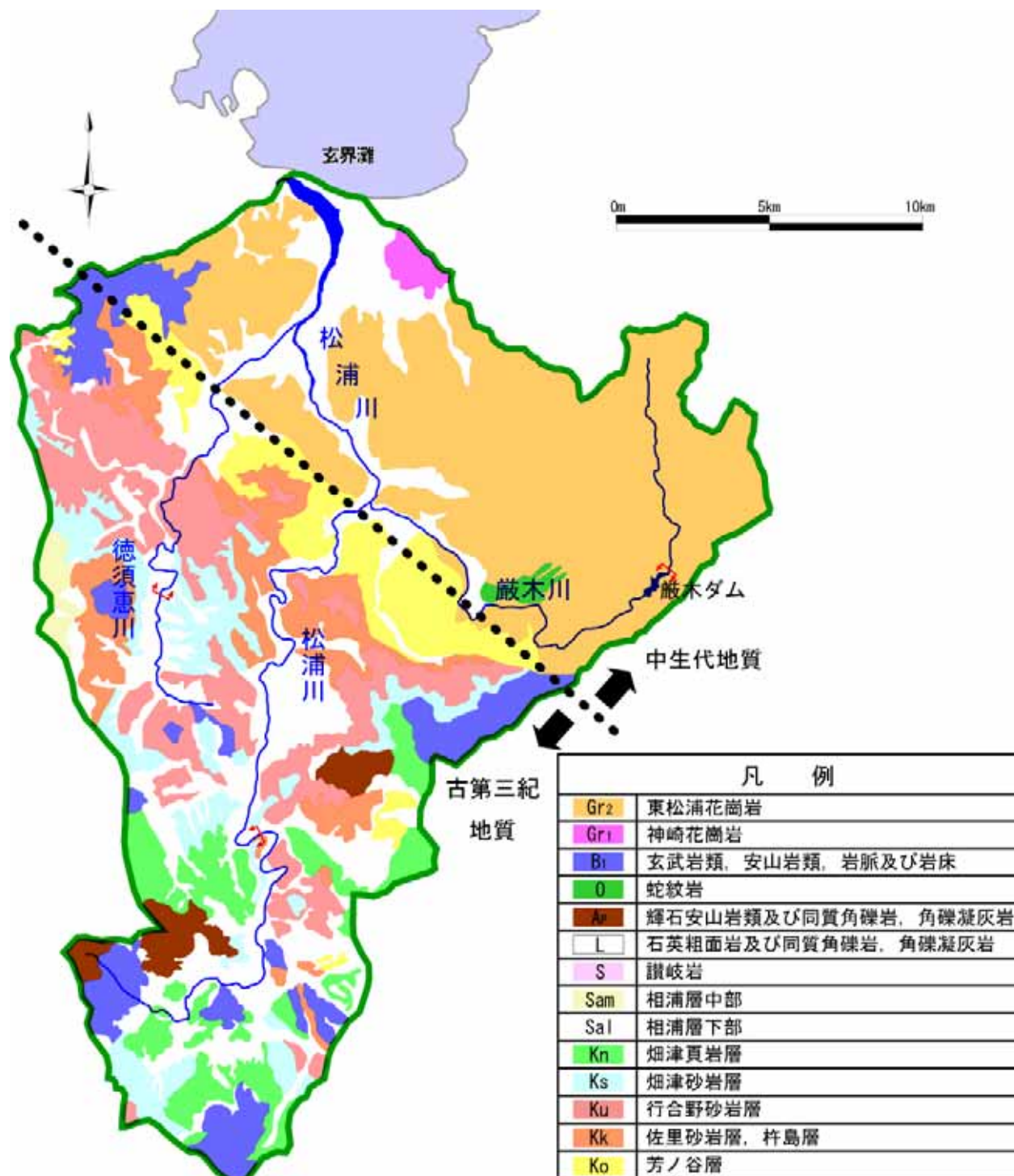


図 1.1.4 松浦川流域地質図

(3) 気候・気象

松浦川流域は、日本海沿岸に面しており、日本海型気候区に属しています。年平均気温は16℃であり、全般に温和な気候となっています。流域の平均年間降雨量は約2,100mm^{※1}（全国の平均降水量約1,700mm^{※2}の約1.2倍）で、月別降水量は6月から7月に集中しており、長崎県の中中部から本流域にかけて、帯状に豪雨が降ることがあります。上中下流域の降水量を比較すると、年間降水量は、上流域2,200mm、中下流域1,700～1,900mmとなっています。

※1：平成7年～平成16年の10年間の平均値

※2：「理科年表」記載の全国主要観測所の昭和36年～平成2年の30年間の平均値



図 1.1.5 気候区分図

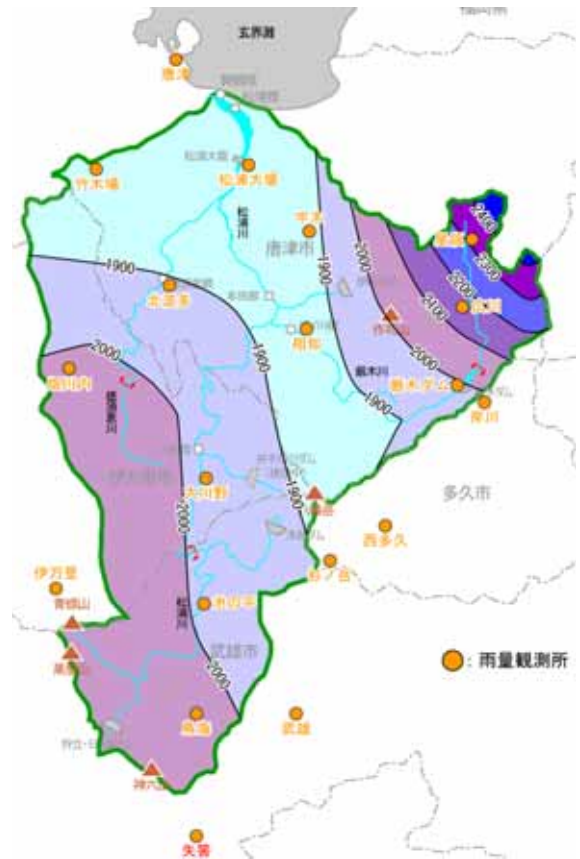


図 1.1.6 松浦川年等雨量線図

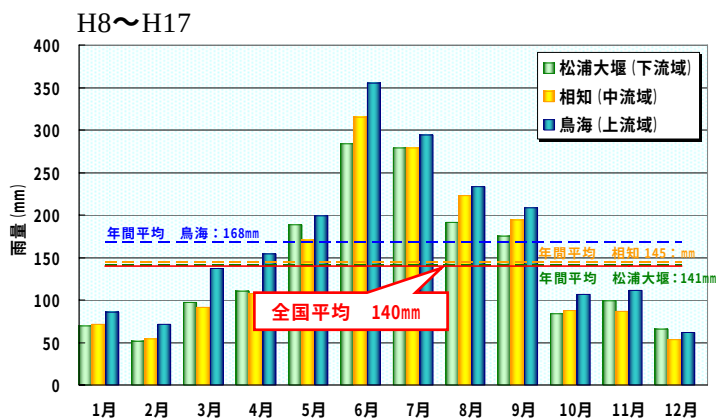


図 1.1.7 月別降水量

（出典：国土交通省）

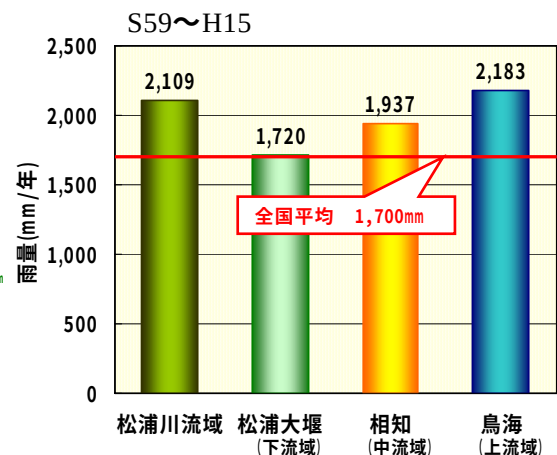


図 1.1.8 年平均降水量の比較

（出典：国土交通省）

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(4) 自然環境

松浦川流域は、スギ・ヒノキ等植林やシイ・カシ^{ほうが}萌芽林を中心とした山地が流域の約 9 割を占め、平地は、松浦川本川、徳須恵川および巖木川沿いに広がり、水田等が形成されています。また、流域内には、山地斜面を利用した果樹園が点在しています。



図 1.1.9 松浦川流域の植生

1) 河川及びその周辺の自然環境

松浦川本川の源流付近には、黒髪山カネコシダ自生地、また川古^{かわご}のクスなど天然記念物が存在します。山間を流れる区間ではヤマセミやカワセミなどが見られます。

源流から厳木川合流点下流付近までの中上流部は、スギ・ヒノキ等植林を主体とした低い丘陵地となっており、狭い田園地帯を流下します。河床には所々岩盤が露出し、メダケやオオタチヤナギなどが河岸に繁茂しています。水域には、イダ（ウグイ）、オイカワなどが生息します。特にイダは、春一番が吹く頃に遡上することから「イダ嵐」として地域の風物詩になっています。また、唐津市佐里地区のアザメの瀬では、コイ・フナ・ドジョウなどや湿地性植物の生息・生育の場となるよう氾濫原^{さり}における湿地の再生に取り組んでいます。厳木川合流点付近は、良好なアユの産卵場となっているほか、砂礫河原にはチドリ類が見られます。その他、松浦川、厳木川の上流部はホタルの生息地として地域から親しまれています。

※：氾濫原とは、河川の氾濫や河道の移動によってできた平野のことで、河川の堆積物によって構成され、洪水時には浸水します。



写真 1.1.2 松浦川上流

（松浦川 鳥海川合流点付近：武雄市武内町）
青螺山を源に発した松浦川は、武雄市を貫流し、鳥海川などの支川を合わせて伊万里市へ入ります。



写真 1.1.3 松浦川中流

（松浦川 13/200 付近：唐津市相知町）
狭い田園地帯を蛇行しながら流下しています。



写真 1.1.4 アザメの瀬

（松浦川 16/000 付近：唐津市佐里）



写真 1.1.5 砂礫河原

（松浦川 12/600 付近：唐津市牟田部）

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

厳木川合流点下流付近から松浦大堰^{まつうらおおぜき}までの下流部は湛水区間となっており、メダケ、オギ群落^{しゅうりゃく}が河岸に繁茂し、徳須恵川合流点付近では、ヨシ、マコモなどからなる湿地が形成され、サギやメダカなどが生息しています。

松浦大堰下流部は汽水域^{きすいいき}※¹となっており、マハゼやシラウオなどが生息しています。また、河岸にはハマツナやシオクグなどの塩生植物^{しおせいしょくぶつ}※²群落^{しゅうりゃく}が点在し、干潟にはハクセンシオマネキなどが生息しています。

厳木川は、河床に岩盤が露出し、水域にはアリアケギバチやオヤニラミ、ゲンジボタルなどが生息しています。

徳須恵川は、上流の山間渓谷部ではヤマセミなどが生息し、下流の平野部の水域には、アユ、オイカワなどが生息しています。

※1：汽水域とは、河川の淡水（真水）と海水が混じり合う区域のことです。

※2：塩生植物とは、海浜植物のように、塩分の多い水に耐える植物のことです。



写真 1.1.6 松浦川下流

（松浦川 6/000 付近：唐津市久里）

堰湛水部は人々に盛んに利用されています。



写真 1.1.7 松浦川河口部

（松浦川 0/000 付近：唐津市和多田）

広大な汽水域を形成し、唐津市街地を貫流し、玄界灘へ注いでいます。



写真 1.1.8 徳須恵川

（徳須恵川 11/000 付近：伊万里市南波多町）

狭い田園地帯を激しく蛇行しながら流下します。



写真 1.1.9 厳木川

（厳木川 6/000 付近：唐津市厳木町）

河床は急勾配で、早瀬が卓越する溪流河川です。

2) 自然公園

松浦川流域は、「黒髪山^{くろかみ}県立自然公園」「八幡岳^{はちまんだけ}県立自然公園」「天山^{てんざん}県立自然公園」に囲まれ、アカマツ林や常緑針葉樹植林が広く分布しており、田園風景と調和した豊かな自然環境を有しています。

黒髪山は全国的に有名な植物の山として知られ、クロカミラン・ヤツガシラ・ヒレフリカラマツ・クロカミシライトソウなどの全国的にも珍しい固有種が多く自生しています。また黒髪山は、シダ植物が豊富で、ヒノキシダ・コガネシダなど約 70 種のシダ植物が自生しています。特に、カネコシダの自生地は、国指定天然記念物に指定されています。

松浦川河口は、玄界灘に臨む福岡^{ふくおか}、佐賀、長崎三県の海岸線を区域にした玄海国定公園を有しており、白砂青松の海岸線が続いています。

虹の松原は、日本三大松原のひとつで国指定特別名勝に指定されており、主な樹種はクロマツです。クロマツ林から海岸までは海浜植物群落の宝庫であり、ハマエンドウ・ハマダイコン・ハマニガナ・ハマボウフウ・ハマゴウ・ハマヒルガオといった「浜」がつく砂丘植物が砂浜を覆っています。

表 1.1.1 松浦川流域の自然公園指定状況

名称	面積 (ha)	指定年月日	備考
玄海国定公園	10,158	S31.6.1	・九州の北西岸、玄界灘に臨んだ海岸部に広がる一大海洋公園。東は北九州若松区遠見鼻から、西は東松浦半島の西岸部までの海岸部と沿岸部の島々からなる。 ・指定区域は、福岡・佐賀・長崎の 3 県にまたがっている。 ・園内は、玄武岩の柱状節理が発達した海食洞門や弧状の松原海岸が多く、大陸文化の窓口であったことから文化的遺産も多く点在している。特に、虹の松原（特別名勝）・鏡山・唐津城等は風光明媚な箇所である。
天山 県立自然公園	4,930	S45.10.1	・天山山地の主峰天山と作礼山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、唐津市、多久市、佐賀市、小城市にまたがっている。 ・天山は県下では、三番目に高い山で、肥前アルプスと呼ばれる。山頂には天山神社があり、雄大な眺望を有する。また、作礼山はハイキング・キャンプの適地で、名勝として知られる見帰りの滝がある。
八幡岳 県立自然公園	860	S45.10.1	・武雄市の北端部にそびえる、標高764mの八幡岳を中心とした山岳公園。 ・指定区域は伊万里市、武雄市、唐津市、多久市にまたがっている。 ・八幡岳は筑紫山地の一峰で、山頂一帯にはススキが多く、池・山小屋があり、相知町にはキャンプ場も開かれている。また山ツツジが群生し、開花期の5月は見頃である。
黒髪山 県立自然公園	1,684	S12.7.5	・有田町と唐津市の境にそびえる黒髪山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、伊万里市、武雄市、有田町にまたがっている。 ・黒髪山は「肥前耶馬溪」とも称される景勝地で、自然休養林にも指定されている。

黒髪山の大蛇伝説

松浦川の上流にそびえる黒髪山は、今も観光地として有名です。昔、ここに悪い大蛇が住み着き、様々な害を起こしていたそうです。そこで、天治元年（今から 900 年ほど前）に鎮西八郎為朝という人がこれを退治したということです。この黒髪山の大蛇とは、水害を引き起こす松浦川のことと解釈されています。（末盧國 編集：松浦史談会）



1 松浦川の概要
1. 1 流域及び河川の概要

表 1.1.2 松浦川流域の鳥獣保護区指定状況

名称	主なる所在地	期間	面積 (ha)
岸岳鳥獣保護区	唐津市	H12.11.1～H22.10.31	24
天山鳥獣保護区	佐賀市・唐津市・多久市・小城市	H15.11.14～H25.10.31	278
稗田鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14～H25.10.31	10
八幡岳鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14～H25.10.31	75
作礼山鳥獣保護区	唐津市	H16.11.12～H26.10.31	465
黒髪山鳥獣保護区	伊万里市・有田町・旧西有田町・旧山内町	H16.11.12～H26.10.31	2,202

※ 山内町は平成18年3月1日に武雄市と合併

※ 西有田町は平成18年3月1日に有田町と合併

表 1.1.3 松浦川流域の鳥獣保護区特別保護地区指定状況

名称	主なる所在地	期間	面積 (ha)
黒髪山特別保護地区	旧山内町	H16.11.12～H26.10.31	56

表 1.1.4 松浦川流域で確認された重要な植物群落一覧

件名	所在地
作礼山のアカマツ林	唐津市厳木町、唐津市相知町
作礼山、ジュサイ池の水生植物群落	唐津市厳木町、唐津市相知町
虹の松原のクロマツ林	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
虹の松原、海岸の砂丘植物群落	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
八幡岳の自然木	唐津市相知町、武雄市、多久市
舞鶴公園の暖温帯樹林	唐津市東城内
岸岳のツクバネウツギ群落	唐津市北波多、唐津市相知町
黒髪山の岩角地植物群落	旧有田町、旧西有田町、旧山内町
黒髪山のカネコシダ群落	旧有田町、旧西有田町、旧山内町
黒髪山のアカマツ林	旧有田町、旧西有田町、旧山内町

出典：佐賀県自然環境情報図（第3回自然環境保全基礎調査）、平成元年環境庁



（出典：唐津百景、唐津市）

写真 1.1.10 玄海国定公園（東の浜）



（出典：旧小城町 HP）

写真 1.1.11 天山県立自然公園

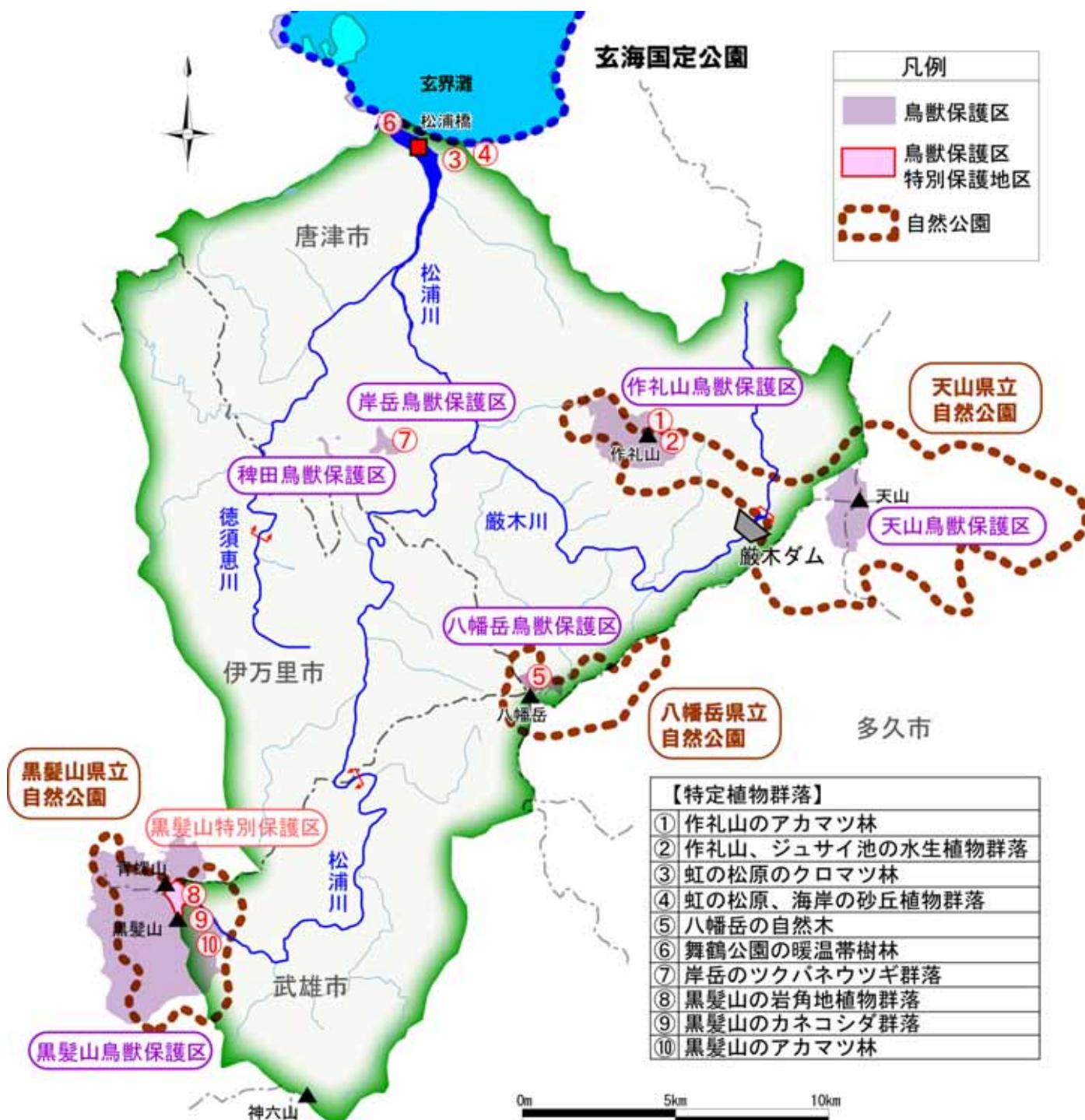


図 1.1.10 自然公園、特定植物群落位置図

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(5) 文化財

1) 名勝・天然記念物・文化的景観

松浦川流域内には、国指定特別名勝 1 件、国指定天然記念物 3 件、市町指定天然記念物 9 件、国選定重要文化的景観 1 件があります。

表 1.1.5 松浦川流域の名勝・天然記念物・文化的景観

市町	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国) 特別名勝	虹の松原	S30.3.24
	(市) 天然記念物	舞鶴公園のフジ	S47.9.1
	(市) 天然記念物	洞泉寺のイチョウ	S47.9.1
	(市) 天然記念物	舞鶴公園のホルトノキ	S48.11.24
旧厳木町	(市) 天然記念物	カヤ(榎)の木	S53.5.17
	(市) 天然記念物	藤原神社社叢林	H2.3.12
	(市) 天然記念物	奥平野湿原動植物群	H3.4.25
	(市) 天然記念物	観音堂のヤブツバキ	H6.10.3
旧北波多村	(市) 天然記念物	志気シャクナゲ	S63.6.1
旧相知町	(国) 重要文化的景観	蔵野の棚田	H20.7.28
武雄市	(国) 天然記念物	カササギ生息地	T12.3.7
	(国) 天然記念物	川古のクス	T13.12.9
	(市) 天然記念物	馬場の山桜	H17.3.30
旧山内町	(国) 天然記念物	カササギ生息地	T12.3.7
	(国) 天然記念物	黒髪山カネコシダ自生地	S2.4.8

※厳木町・北波多村・相知町は平成17年1月1日に唐津市と合併



写真 1.1.12 虹の松原

唐津湾沿いに虹の弧のように連なる松原です。唐津藩初代藩主寺沢志摩守広高が防風・防潮林として植林したのが始まりと言われ、全長 4km、幅 0.5km にわたって続く松は約 100 万本を数えます。今では、三保の松原、気比松原とともに日本三大松原の一つに数えられ、国の特別名勝に指定されています。



写真 1.1.13 川古のクス

根回り 33m、目通り幹周り 21m の巨木で、根が地上に隆起して、地上 2m 近くまでは根と幹との境がはっきりしません。幹の南側には空洞があり、この空洞付近の幹に行基が刻んだと伝えられる像高 240cm 余りの観音像がありましたが、明治初頭の廃仏毀釈の際に削りとられました。そのとき像の頭部から銅製の六手観音小坐像が発見されたといわれ、現在この地区に保管されています。



図 1.1.11 名勝・天然記念物・文化的景観位置図

1 松浦川の概要
1. 1 流域及び河川の概要

2) 重要文化財・重要民俗文化財

松浦川流域内には、国指定重要文化財 3 件、県指定重要文化財 12 件、国指定重要民俗文化財 1 件（無形）、県指定重要民俗文化財 6 件（有形 2 件、無形 4 件）があり、市町指定を加えると多くの重要文化財・民俗文化財が存在します。

表 1.1.6 松浦川流域の重要文化財・重要民俗文化財

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国) 重要文化財 (工芸品)	銅鐘	S25.8.29
	(国) 重要文化財 (考古資料)	肥前唐津市宇木出土品	S35.6.9
	(国) 重要文化財 (建造物)	旧高取家住宅	H10.12.25
	(国) 重要無形民俗文化財	唐津くんちの曳山行事	S55.1.28
	(県) 重要文化財 (建造物)	旧三菱合資会社唐津支店本館	S55.3.20
	(県) 重要文化財 (彫刻)	銅造如来坐像	S59.3.21
	(県) 重要文化財 (考古資料)	宇木汲田遺跡出土銅鐸舌	H2.3.30
	(県) 重要文化財 (彫刻)	木造千手観音菩薩立像	H6.3.31
	(県) 重要文化財 (彫刻)	銅造菩薩形坐像	H9.5.9
	(県) 重要文化財 (工芸品)	鉄釉叩き耳付き水指	H14.3.6
	(県) 重要文化財 (考古資料)	天神ノ元遺跡出土絵画付甕棺	H19.3.14
	(県) 重要有形民俗文化財	唐津曳山	S33.1.23
旧相知町	(県) 重要文化財 (工芸品)	肥前鐘	S36.3.24
	(県) 重要文化財 (彫刻)	木造如意輪観音坐像	S53.3.20
	(県) 重要文化財 (彫刻)	木造薬師如来立像	S58.3.22
旧巖木町	(県) 重要文化財 (建造物)	石造肥前鳥居	S39.5.23
	(県) 重要文化財 (工芸品)	青銅鉢	S58.3.22
	(県) 重要無形民俗文化財	広瀬浮立	S48.4.23
伊万里市	(県) 重要無形民俗文化財	府招浮立	S43.4.23
武雄市	(県) 重要無形民俗文化財	真手野の舞浮立	S54.3.31
旧山内町	(県) 重要有形民俗文化財	荒踊絵馬	S54.3.31
	(県) 重要無形民俗文化財	かんこ踊	S41.4.23



(出典：唐津百景、唐津市)

写真 1.1.14 唐津くんちの曳山行事

毎年 11 月 2 日から 4 日まで、「エンヤ、エンヤ」のかけ声とともに唐津の町を練り歩く唐津くんちは、唐津神社の秋季例大祭です。唐津くんちの曳山行事は国の重要無形民俗文化財にも指定されていて、1 番ヤマの「赤獅子」から 14 番ヤマの「七宝丸」まで、市内を豪快に曳き回す様子は圧巻です。14 台の曳山は県重要有形民俗文化財に指定されており、くんちの日以外は曳山展示場に展示されています。



(出典：旧巖木町 HP)

写真 1.1.15 広瀬^{ひろやう}浮立

天山神社の境内において毎年 9 月の八幡神社例祭と宮地嶽神社例祭に奉納される浮立で、県重要無形民俗文化財に指定されています。武家風の袴（はかま）と裃（かみしも）という勇壮ないでたちで、鉦や太鼓、笛がおごそかに奉納されます。



図 1.1.12 重要文化財・重要民俗文化財位置図

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

3) 史跡

松浦川流域内には、国指定史跡 13 件、県指定史跡 7 件、その他市町指定史跡が多数あります。唐津焼（肥前陶器）・伊万里焼（肥前磁器）などの陶磁器生産が古くから盛んであり、多くの陶磁器窯跡が史跡に指定されています。

表 1.1.7 松浦川流域の史跡

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国) 史跡	葉山尻支石墓群	S41.12.19
	(国) 史跡	菜畑遺跡	S58.5.11
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (御茶盃窯跡)	H17.7.14
	(県) 史跡	島田塚	S47.3.29
旧相知町	(県) 史跡	鵜殿石仏群	S31.3.1
	(県) 史跡	岸岳古窯跡 (道納屋窯跡)	H17.11.7
旧巖木町	(県) 史跡	獅子城跡	H3.3.30
旧北波多村	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (皿屋上窯跡)	H17.7.14
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (帆柱窯跡)	H17.7.14
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (皿屋窯跡)	H17.7.14
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (飯洞甕上窯跡)	H17.7.14
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (飯洞甕下窯跡)	H17.7.14
旧北波多村・旧相知町	(県) 史跡	岸岳城跡	H8.11.15
伊万里市	(県) 史跡	茅ノ谷一号窯跡	S62.3.16
武雄市	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (小峠窯跡)	S15.2.10
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (大谷窯跡)	S15.2.10
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (鑄谷窯跡)	S15.2.10
	(国) 史跡	肥前陶器窯跡 (土師場物原山)	S15.2.10
旧山内町	(国) 史跡	肥前磁器窯跡 (百間窯跡)	S55.3.24
	(県) 史跡	筒江窯跡	S56.3.16



(出典：唐津市 HP)

写真 1.1.16 岸岳古窯跡

岸岳古窯跡群は、最初期の唐津焼を焼成した窯跡群で、中世から近世初めに上松浦地方で勢力をもっていた波多氏の居城である岸岳城の山麓に分布しています。飯洞甕上窯跡、飯洞甕下窯跡、帆柱窯跡、皿屋窯跡、皿屋上窯跡の 5 基が国史跡に指定され、唐津焼発祥の地といわれています。



写真 1.1.17 鵜殿石仏群

伝承によれば、唐から帰国した空海が、霊験あらたかな雰囲気に触発され、阿弥陀・釈迦・観音の三尊を刻んだのが始まりとされます。現在、三尊は実在しませんが、大小 60 余体の磨崖仏は、周囲を圧倒する迫力です。

1 松浦川の概要
1. 1 流域及び河川の概要

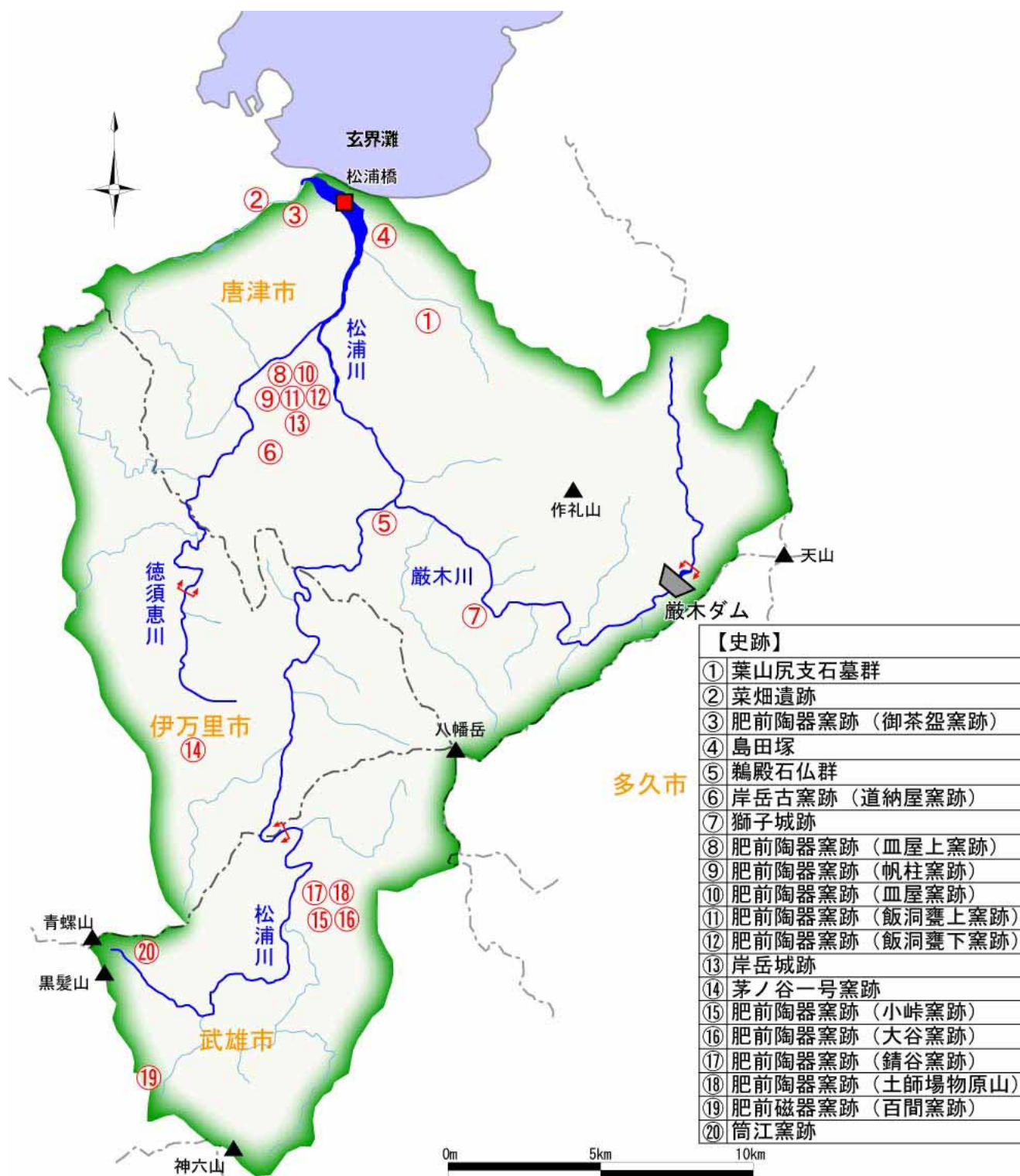


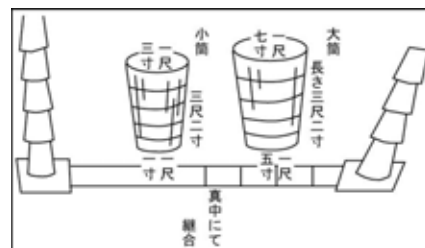
図 1.1.13 史跡位置図

1. 1 流域及び河川の概要

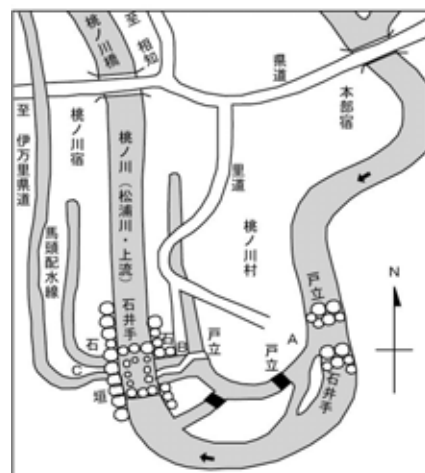
1) 井堰

【萩の尾堰と馬ン頭伏せ越し】

出典：西松浦郡誌



(松浦川 31/400 付近：武雄市若木町)



(出典：佐賀平野の水と土)



(松浦川 30/000 付近：伊万里市松浦町)



【大黒井堰】



写真 1.1.20 大黒井堰

(松浦川 26/200 付近：伊万里市松浦町・大川町)

大黒井堰は、1595 年、寺沢志摩守^{でらむし まのみ}の指示で工事が始まりま
した。しかし、何年も掛けて積み上げた石が、完成間近に洪水
によって流されてしまいました。そこで、大川野の健福寺の
僧侶田代可休^{たしろかへい}が「川中に島を作り水流を二分し、一方に導水
口を設置し洪水の害を回避する」と進言し、これにより堰は
完成しました。

大黒井堰の名は堰の底に大黒天を安置していることから来ています。堰のそばには、寺沢志摩守と田代可休の石碑があります。
(末盧國 編集：松浦史談会)

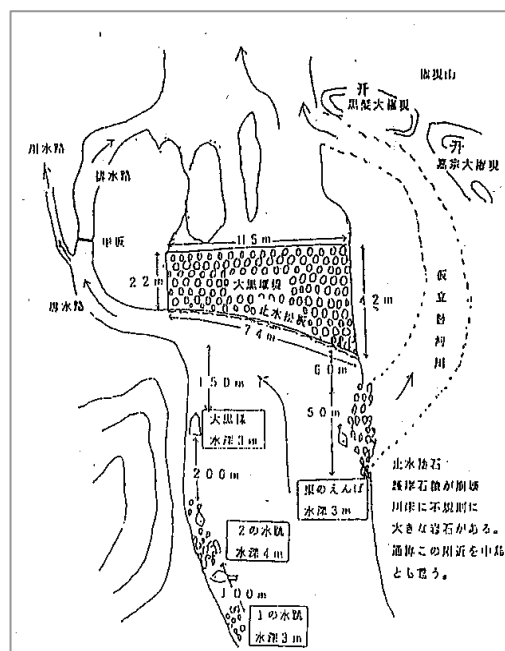


図 1.1.15 大黒井堰見取り図

(出典：大川町百年史)

【岩坂井堰】

堰の最初の建設は江戸時代前期と推定されています。積み石に江戸前期の頃のものや中期～後期、近年切り出した石材が混在しているところから、江戸後期以降に補修を行っていると考えられています。土砂吐き口に見られる石積みの手法は、嘉瀬川の大井手堰復元のお手本となっています。



写真 1.1.21 岩坂井堰（徳須恵川）

(徳須恵川 13/800 付近：伊万里市南波多町)

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

2) 舟運

松浦川は、藩政時代から米や石炭などの輸送に利用されていました。松浦川の河口から約 21km 付近の駒鳴^{こまなき}には集積場（石坂問屋）があり、この辺りまで航行していたといわれています。

また、明治 29 年、河口に唐津橋（松浦橋）が架けられるまでは、松浦川河口付近には 1 本の橋も無く、河口から一番近い橋は、徳須恵川合流付近の「川原橋」のみでした。江戸時代から明治のはじめまで、人々は渡し船を使うか、浅瀬を徒歩で渡って松浦川を往来していました。そのため、松浦川から厳木川合流点付近の間に、9 つもの渡し場がありました。



写真 1.1.22 明治 44～45 年頃の渡し場の状況



図 1.1.16 松浦川下流旧渡し場位置図

石坂問屋と井手おち

今の駒鳴に昔、石坂問屋という川船の問屋がありました。石坂問屋は、上流から運ばれてくる年貢米や様々な物産をとりまとめて唐津に送ったり、唐津から魚介類などの食料品や衣料品、武具なども取り寄せ販売する「流通センター」のような役割をしていました。

松浦川の上流では、川が狭く、急な瀬もあったので、荷物を積んだ船が通れない場合もありました。そこで、舟場の上流に「井手(堰)」を作って水を溜め、船が下るときに井手をあげて溜めておいた水を流し、その流れに乗って川を下る方法がとられていました。また「川際」といって、村の石高に応じた川さらいの出来を賦課されていました。以上のように、川船の航行に工夫していました。（末盧國 編集：松浦史談会）



3) 松浦川にまつわる伝説

【佐用姫伝説】

松浦川河口には、佐用姫伝説にまつわる佐用姫岩が存在します。

「昔、都より兵を率いて松浦の里に滞在していた大伴狭手彦は、長者の娘佐用姫と恋に落ちました。やがて新羅出兵を命じられた狭手彦に船出の日が訪れました。佐用姫は鏡山の頂きより領巾を振り名残を惜しみ、ついには船を追って呼子の加部島へと渡り、別れの悲しみのあまり石になってしまいました。」

佐用姫伝説に関連する記録は「肥前国風土記」にもあり、「万葉集」にも山上憶良を始め多くの歌人たちによって詩歌に詠まれています。



写真 1.1.23 佐用姫岩と鏡山

(松浦川河口付近)

松浦県 佐用比売の子が 領布振りし 山の名のみや 聞きつつ居らむ

(万葉集巻五 868 山上憶良)

行く船を 振り留みかね 如何ばかり 恋しくありけむ 松浦佐用比売

(万葉集巻五 875 詠み人知らず)

海原の 沖行く船を 帰れとか 領布振らしけむ 松浦佐用姫

(万葉集巻五 874 詠み人知らず)

等、他数首あり

【イダ伝説】

松浦川上流域の黒髪山にまつわる伝説で、昔、ここに悪い大蛇が住みつき、様々な害を起こしていました。そこで、天治元年(約 900 年前)に鎮西八郎為朝という人物がこれを退治しました。退治された大蛇は松浦川に流れ込み沢山の石斑魚(イダ)になって海に入り、毎年春になると遡って黒髪山に御礼詣をします。そのため、松浦川本流以外の川には遡らなかったと言われていました。松浦川のことを「イダ川」と書くなど松浦川の季節的川魚で大川野(伊万里市大川町)近隣の名物です。

イダは春一番が吹く頃に川を遡ることから、大川野では、春一番のことを「イダ嵐」とも言います。



写真 1.1.24 ウグイ (イダ)

(コイ目コイ科)

河川型は、主に上流域の淵などに単独または群れで動き回るものがほとんどです。降海型は、主に河口から沿岸域で生活し、2月下旬頃から春にかけて産卵のために遡上します。なお、松浦川のウグイは佐賀県では唯一降海型の集団です。

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(7) 地域行事・観光

1) 地域行事

松浦川流域では、数多くの行事が催されています。なかでも唐津くんちは佐賀県を代表するお祭りの一つであり、豪華絢爛な 14 台の曳山が市中を練り回ります。また、河口部の水面に美しく映し出される九州花火大会は、夏の風物詩として地域に広く定着しています。

表 1.1.8 松浦川流域の主な地域行事

流域内市町	行事名称	開催時期	概要
唐津市	九州花火大会	7月下旬	新聞社が市民へのサービスとして昭和28年から始めたものが、伝統行事として毎年行われる。松浦川3k9付近の右岸の唐津市鏡河畔公園運動広場を利用して、多くの人が見物に訪れる。
	虹の松原 トライアスロン大会	7月	この大会は、唐津の虹の松原や鏡山など素晴らしい自然を全国の方々に知って欲しいとの願いから地元のトライアスロングループを中心に多くの市民の協力を得て2000年から開催し、唐津市の新たなイベントとして期待される。
	鏡商工祭り	10月	「松浦川ブラックバス駆除釣り大会」や「鏡を知る探索ウォーク」などが行われる。
	唐津くんち	11月2～4日	文政2年（1819年）、唐津神社に町人達が赤獅子を奉納したのに始まった秋祭り。国指定重要文化財にも指定されている豪華絢爛な14台の曳山が唐津市中を練りまわる。
旧相知町	見歸りの滝 ニジマス釣り大会	春期	割烹組合4軒が主催。ヤマメの放流やたけのこ取り大会も行っている。
	横枕井堰祭り	春期	横枕集落の歴史に触れ、四季を通じて井堰を取り入れたイベントを実施。自然を愛し、故郷を語り合い、集落内のコミュニケーションを図っている。（厳木川3k付近）
	町切水車 取り付け研修交流	5月	参加者全員で環境美化活動のあと、参加者全員「研修生」となって水車の取り付けを体感し、自然の営みの中で「町切水車」の役割などを研修。また河川、町切堰周辺の環境、散策、歴史探訪会も実施。
	牟田部の いかだ流し大会		河川掃除が目的。バーベキュー、そうめん流しなどを行う。厳木川山崎橋～田頭橋。
旧厳木町	きゅうらぎ川あゆまつり	7月下旬	河川美化、水産資源の保護を目的としている祭り。河原でせせらぎの音を聞きながら、炭火焼きのアユ・ヤマメなどを楽しむイベント。（厳木川11k5付近）
	広瀬浮立	9月末	毎年、八幡神社の例祭が行われる9月15日と、宮地嶽神社例祭である9月23日の両日天山神社境内で奉納されるものである。
	風のふるさとまつり	11月末	駅伝大会の実施。
旧北波多村	行合野コイ祭り	5月初旬	5月の第1日曜日開催。場所は徳須恵川中村橋付近で、鯉のぼりをあげたり、コイの放流を行っている。
	北波多環境の日（河童の 里イカダレース）	夏期	発砲スチロールによるカヌーレースで、村おこしグループが開催。大杉公民館近くの護岸では、焼き鳥や飲み物バザーなどの出店もあり、楽しい雰囲気の中レースが開催されている。（徳須恵川4k54付近）
伊万里市	大井手おとし	10月下旬	約400年前に造られた萩の尾堰に感謝を込めて近年2年おきに実施。松浦川31k4付近。
	馬ん頭堰まつり		2年に一度開催。成富兵庫茂安を奉るお祭りで、地元主催。
	桃川フェスタ		2年に一度開催。夏場に河川清掃をおこなう。地元以外からも参加者が募る。

※ 相知町、厳木町、北波多村は平成17年1月1日に唐津市と合併



写真 1.1.25 唐津くんち



写真 1.1.26 虹の松原トライアスロン大会

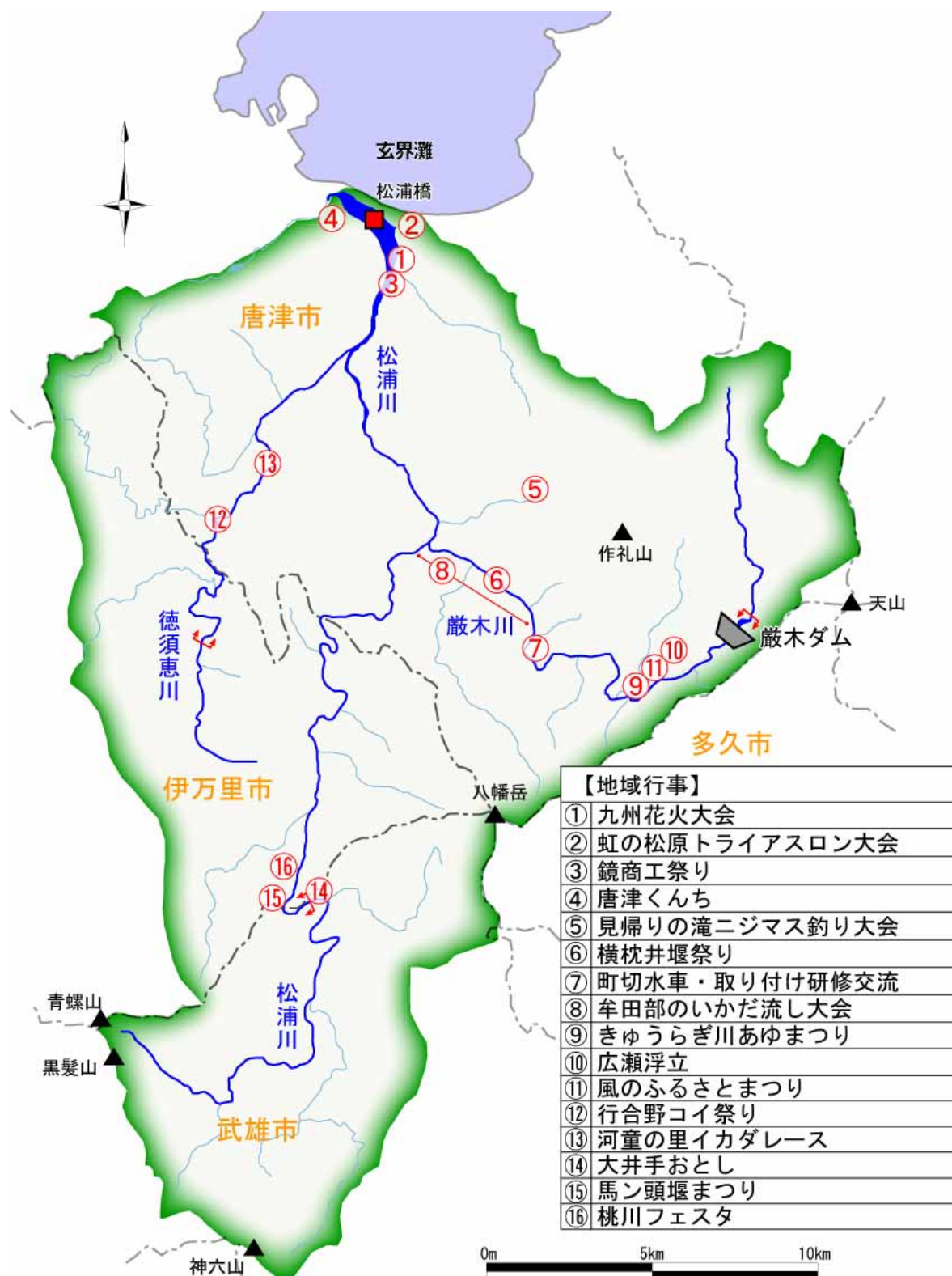


図 1.1.17 主な地域行事

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

2) 観光

松浦川流域の下流部には、玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原、中流部には、日本の滝百選に選ばれている「見帰りの滝」、日本の棚田百選に選ばれている「^{むらびの}蕨野の棚田」、上流部には、全国第三位の巨樹である「川古のクス」など、自然を活かした観光資源が多く存在します。また、下流河口部には、唐津城や唐津焼で有名な窯跡など、歴史的観光施設(史跡)もあります。

表 1.1.9 松浦川流域の観光資源

流域内市町村	観光資源
唐津市	「玄海国定公園」/「虹の松原」/「唐津城」/「唐津曳山」/「舞鶴公園」/「唐津神社」/「近松寺」/「鏡山」/「東の浜公園」/「東の浜海水浴場」/「鏡神社」/「恵日寺」/「銅鐘」/「宇木汲田遺跡出土品」/「葉山尻支石墓」
旧相知町	「相知くんち」/「鶴殿石仏群」/「見帰りの滝」/「八幡岳県立自然公園」/「芙蓉山医王寺」/「佐里温泉」/「蕨野の棚田」
旧厳木町	「石造肥前鳥居」
旧北波多村	「岸岳城跡」/「旗本百人腹切り場所」/「岸岳古窯跡」/「瑞厳寺」/「岸山法安寺」
伊万里市	「大川内山窯元」
武雄市	「肥前陶器窯跡」/「小峠窯跡」/「大谷窯跡」/「鍔谷窯跡」/「黒牟田焼」/「川古のクス」/「八幡岳県立自然公園」
旧山内町	「黒髪山県立自然公園」

※ 相知町、厳木町、北波多村は平成17年1月1日に唐津市と合併

※ 山内町は平成18年3月1日に武雄市と合併



写真 1.1.27 見帰りの滝



写真 1.1.28 唐津城



写真 1.1.29 蕨野の棚田

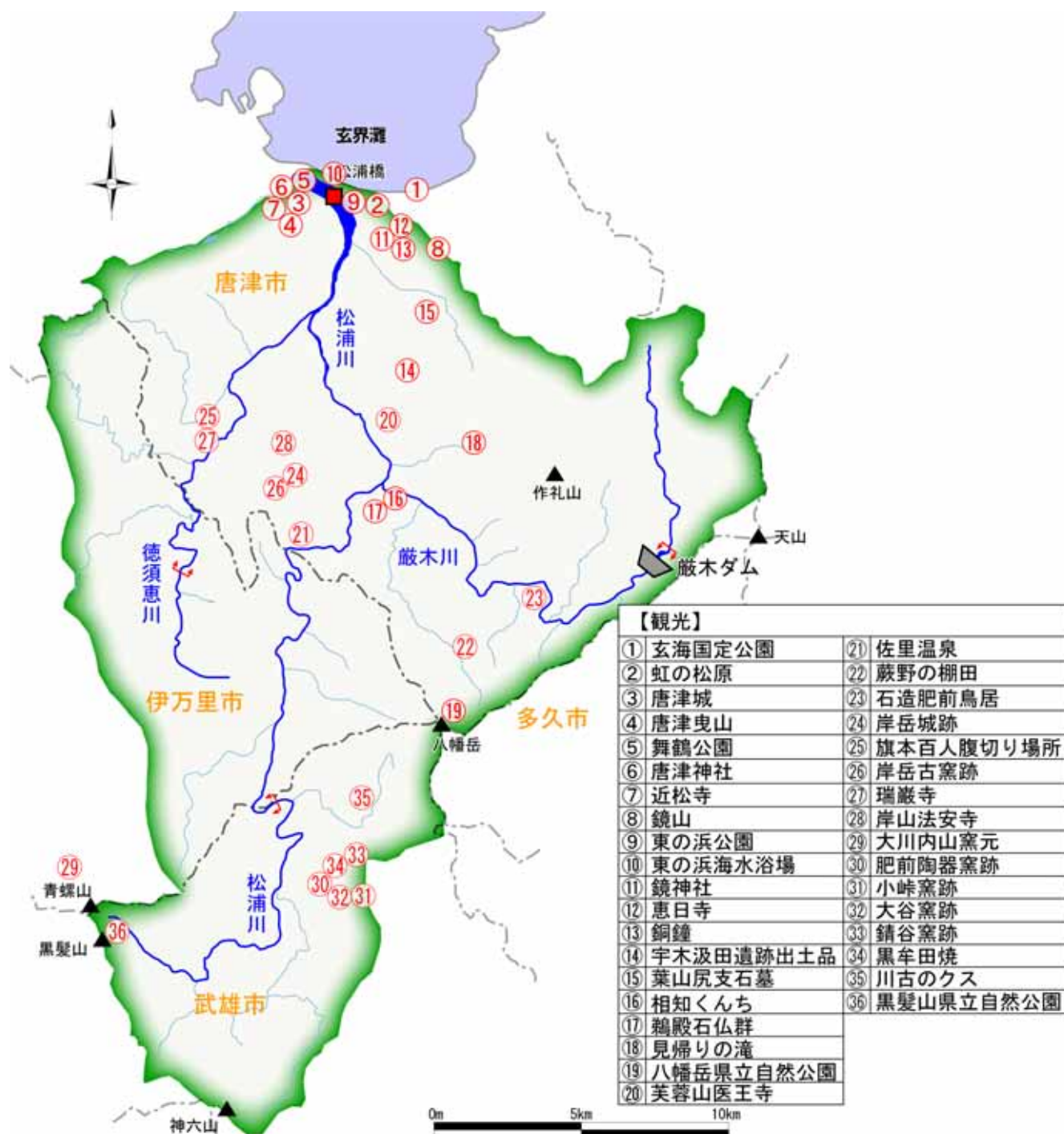


図 1.1.18 主な観光資源位置図

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

1.1.2 流域の社会的状況

(1) 土地利用

松浦川流域内の土地利用面積の割合は、山地等が 84%、水田や畑地等が 15%、宅地等が 1% となっています。

宅地等の市街地は、松浦川下流の唐津市に集中しており、唐津市を中心として JR 筑肥線、唐津線、国道 202 号、203 号等の基幹交通施設に加え、西九州自動車道が整備中であるなど、交通の要衝を成しており、この地域における社会・経済・文化の基盤を形成しています。

中上流部では、山間平地で水田や田畑等の農地利用がなされています。

また佐賀県内の 6 つの県立自然公園のうち、3 つが松浦川流域内にまたがり、河口域は玄海国立公園を有しており、自然豊かな流域です。

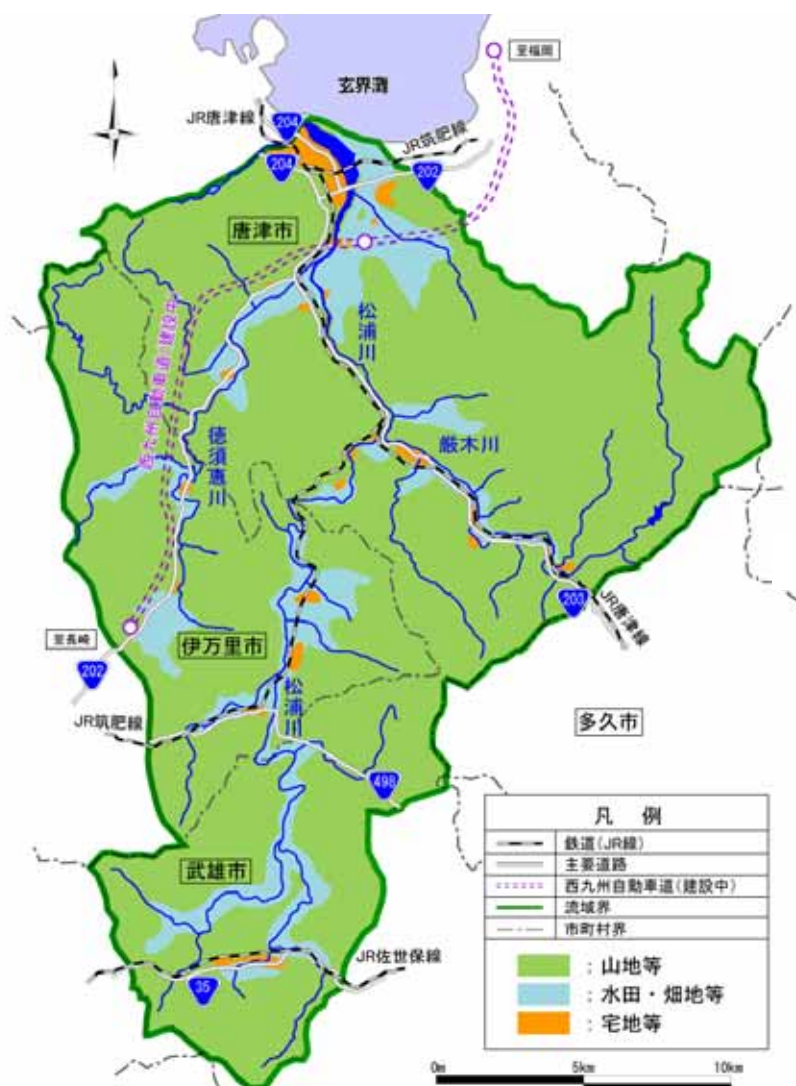


図 1.1.19 松浦川水系土地利用図



写真 1.1.30 河口域と唐津市街地

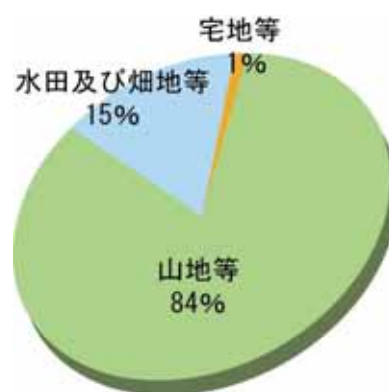


図 1.1.20 流域内土地利用

(2) 人口

松浦川流域内の主要な都市である唐津市の人口は約 13 万人であり、県内第 2 位の人口を誇っています。また、関係市町村の人口推移をみると、最も人口が多い唐津市をはじめ、増減傾向に変動はあるものの、概ね横ばい傾向にあります。

表 1.1.10 関係市町村の人口推移

(単位：人)

市町村	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)
唐津市	74,233	75,224	77,710	78,744	79,207	79,575	78,945	131,119
厳木町※2	8,647	7,951	8,056	7,665	6,854	6,341	5,815	(5,331)
相知町※2	11,106	10,621	10,492	10,280	9,752	9,199	8,853	(8,837)
北波多村※2	4,299	4,174	5,021	5,257	5,199	4,925	4,736	(4,586)
伊万里市	61,561	60,913	61,243	62,044	60,882	60,348	59,143	58,197
武雄市	35,377	34,250	34,239	34,801	34,490	35,062	34,603	33,697
山内町※3	9,463	9,357	9,892	10,254	10,324	10,097	9,817	9,486
合計	204,686	202,490	206,653	209,045	206,708	205,547	201,912	232,499

※1:平成17年の人口は合併後の人口であり、一部流域外市町村の人口を含むため参考値とする。

※2:平成17年1月1日に唐津市と合併

※3:平成18年3月1日に武雄市と合併

出典：佐賀県 HP（さが統計情報館）

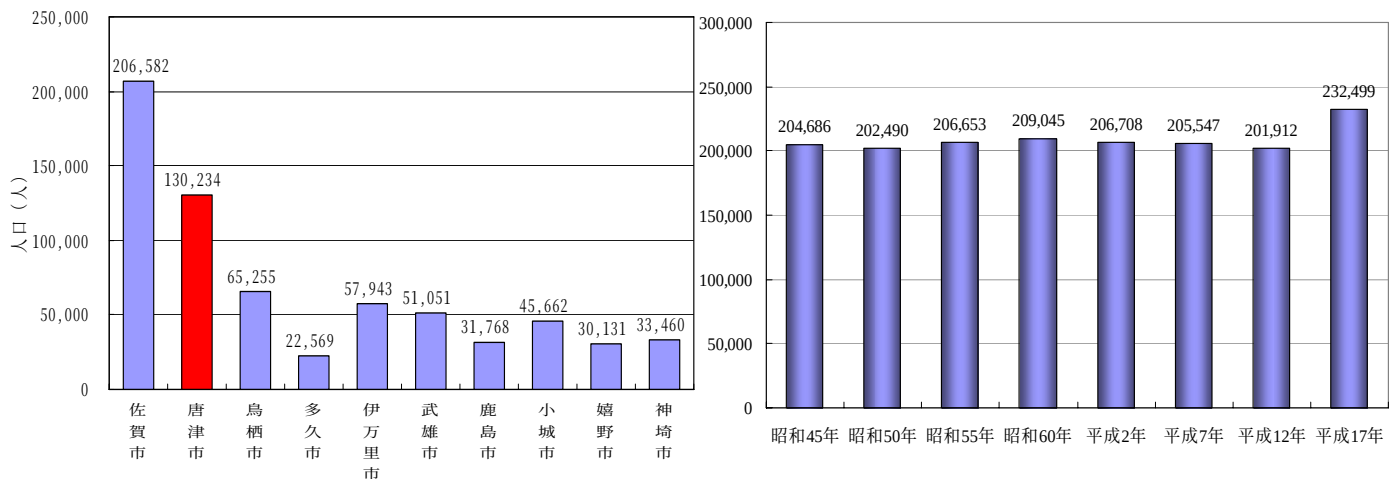


図 1.1.21 佐賀県内の主要都市の人口

出典：佐賀県 HP<平成 18 年 6 月現在>

図 1.1.22 松浦川流域関係市町村人口経年変化図

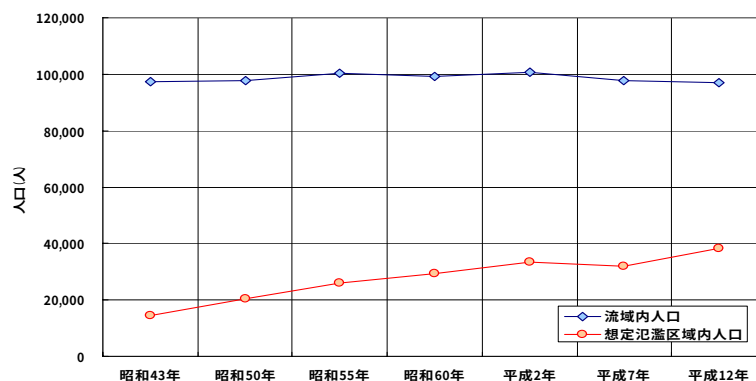


図 1.1.23 松浦川流域内および氾濫区域内人口の推移

(出典：河川現況調査)

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(3) 産業経済

松浦川流域内の産業別人口推移は、一次産業従業者が年々減少傾向であるのに対し、二次産業は横ばい、三次産業は微増傾向にあります。

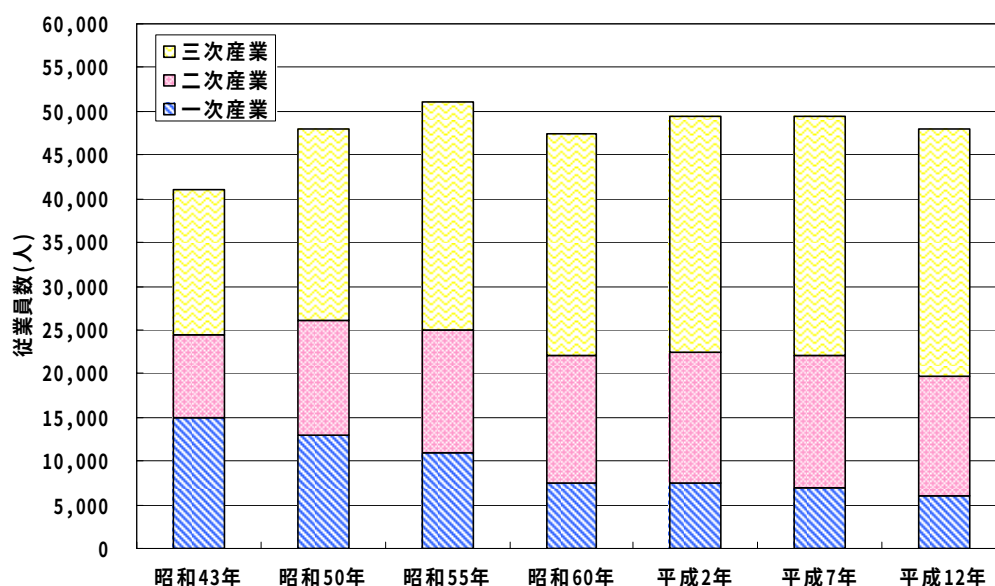


図 1.1.24 流域内産業別従業員の推移

松浦川流域の主な産業をみると、上流域では、温暖な気候を利用したイチゴやハウスみかん、梨などの果樹栽培や林業、畜産が盛んです。特に、伊万里牛や伊万里梨、棚田百選にも選ばれた「蔵野の棚田」で生産された棚田米はブランド化され商品価値が高くなっています。中流域では山間平地において、水田や田畑等の農地利用がなされています。主な利用は稲作ですが、減反政策や河川改修の進捗にともなう洪水氾濫の減少等によって、ハウス栽培などの高度な農地利用が進んでいます。

下流域では唐津市を中心に観光産業や商工業が盛んです。特に、玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原、また、唐津城や唐津焼で有名な窯跡など、歴史的観光施設（史跡）もあることから、全国から多くの観光客が訪れています。



写真 1.1.31 伊万里梨

伊万里市は、西日本有数の梨産地であり、「伊万里梨」は、豊かな果汁と歯ごたえが特徴です。



写真 1.1.32 伊万里牛

恵まれた緑豊かな伊万里の自然環境のなかで丹念に育てられた伊万里牛は、伊万里焼とともに伊万里を代表する特産物です。



写真 1.1.33 山間部の田園風景

(松浦川 25/000 付近：伊万里市大川町)
稲作とともに、ハウス栽培なども近年盛んです。



写真 1.1.34 蔵野の棚田

(唐津市相知町)

蔵野（わらびの）という地名が示すとおり、春には蔵が群生する山間の集落です。農地は標高が 150～420m の急傾地にあり、昭和初期までの間に山腹を開墾しながら拡張された石積みの棚田が 1050 枚、40 ヘクタールの面積を有しています。



写真 1.1.35 唐津焼

唐津焼の始まりについては、いくつかの説がありますが、16 世紀の終わりにはすでに焼かれていたとされています。

1 松浦川の概要

1. 1 流域及び河川の概要

(4) 交通

松浦川流域は、国道 35・202・203・204 号、JR 筑肥線・唐津線など、唐津市を中心とした交通網の整備がなされています。国道 202 号は支川徳須恵川沿いを、国道 203 号は支川厳木川沿いを併走し、各々唐津市と伊万里市、佐賀市と唐津市を結び、福岡までつながる幹線道路として利用されています。また、長崎～唐津～福岡を結ぶ西九州自動車道が現在整備中です。



図 1.1.25 松浦川流域の主要交通網図



写真 1.1.36 唐津駅 (JR 筑肥線)



写真 1.1.37 国道 202 号
(唐津市北波多付近)

1.2 治水の沿革

1.2.1 洪水の概要

松浦川での大規模な洪水は梅雨前線によるものが多く、大きな被害をもたらす洪水は、梅雨前線が流域上に停滞して発達した低気圧が前線上を通過した場合と、南西海上に台風が発生して湿った空気を梅雨前線上に送りこんだ場合に大雨をもたらすケースがほとんどです。

特に、昭和 28 年 6 月、昭和 42 年 7 月および平成 2 年 7 月の洪水は、松浦川の全域にわたって大きな被害をもたらしました。このうち昭和 28 年 6 月洪水は、家屋全・半壊流失 573 戸、床上浸水 30,537 戸、氾濫面積（農地）1,270ha に達し、平成 2 年 7 月洪水は、家屋全壊流出 3 戸、家屋半壊 11 戸、床上浸水 130 戸、床下浸水 422 戸、浸水面積 1,623ha に達し、近年稀にみる多大な被害となりました。

また、平成 18 年 9 月洪水※では、徳須恵川に多大な被害をもたらし、床上浸水 54 戸、床下浸水 39 戸、浸水面積 111ha に達しました。

※平成 18 年 9 月洪水による浸水戸数および浸水面積等の被害状況については、速報値によるものです。

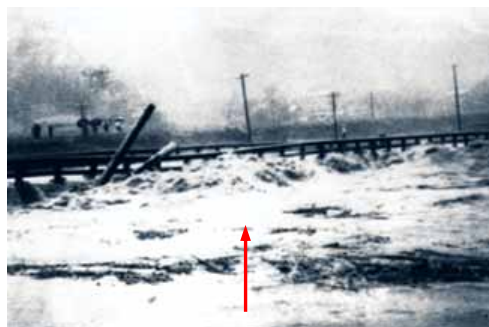


写真 1.2.1 昭和 28 年 6 月洪水の状況
(厳木川 9/800 付近：唐津市厳木町)



写真 1.2.3 平成 2 年 7 月洪水の状況
(松浦川 25/400 付近：伊万里市大川町)

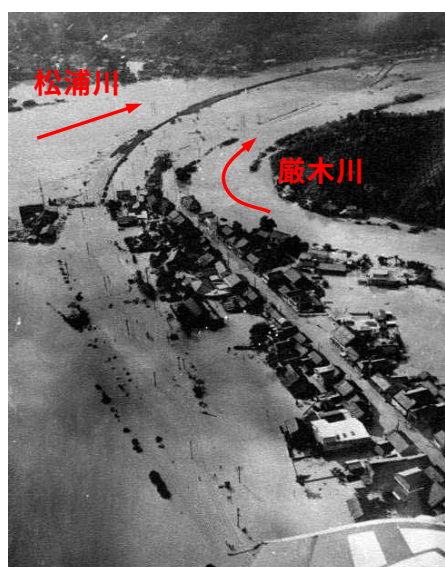


写真 1.2.2 昭和 42 年 7 月洪水の状況
(厳木川合流点：唐津市相知町)

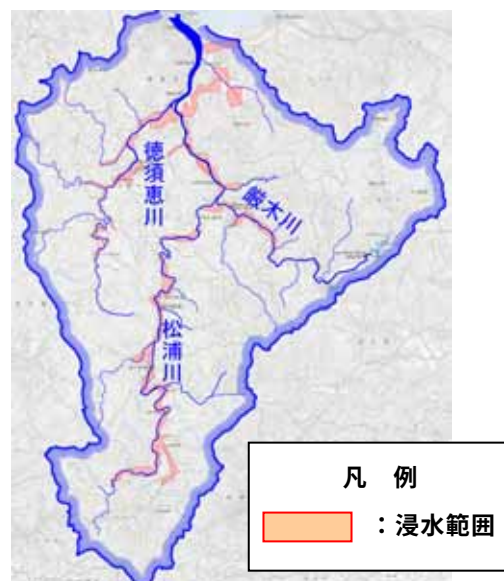


図 1.2.1 平成 2 年 7 月洪水浸水状況図
梅雨前線豪雨により、越水など各所で発生し、深刻な被害を受けました。松浦川本川、支川徳須恵川、支川厳木川の 3 河川で、越水被害延長 25,700m、越水被害額 60 億円にのぼる大出水となりました。

1 松浦川の概要
1. 2 治水の沿革

平成 2 年 7 月洪水



写真 1.2.4 ^{いささ}伊岐佐川合流点付近の状況

(松浦川 12/600 付近：唐津市相知町)



写真 1.2.5 ^{おおかわの}大川野輪中堤内浸水状況

(伊万里市大川町)



写真 1.2.6 ^{もみのき}榎ノ木橋付近の状況

(厳木川 8/200 付近：唐津市厳木町)



写真 1.2.7 ^{しげ}志気橋付近の状況

(徳須恵川 8/200 付近：伊万里市北波多町)

平成 18 年 9 月洪水



写真 1.2.8 行合野地区の状況

(徳須恵川 6/000 付近：唐津市北波多)



写真 1.2.9 ^{うづみ}水留橋付近の状況

(徳須恵川 12/600 付近：伊万里市南波多町)



写真 1.2.10 古里橋付近の状況

(徳須恵川 11/800 付近：伊万里市南波多町)



表 1.2.1 過去の主な洪水と洪水被害

洪水発生年	出水概要	被害状況
昭和 28 年 6 月 (梅雨前線)	24 日午後から 25 日早朝にかけて、満州から華中方向へ南西にのびる気圧の谷が次第に深まり、山東半島の南に低気圧を伴って接近したため、梅雨前線が北上し、佐賀地方は 25 日朝から雨となった。午後からますます強くなり、26 日昼にはすでに 400mm の大雨となり、壊滅的な被害を引き起こした。	家屋全・半壊流失 573 戸 床上浸水 30,537 戸 氾濫面積 (農地) 1,270ha
昭和 42 年 7 月 (梅雨前線)	台風 7 号の衰弱した低気圧が九州北部を通過し梅雨前線を刺激して、県西部を中心に集中豪雨が降り、相知 72mm、鳥海 93.6mm、宇木 67.5mm と記録的な大集中豪雨となった。	家屋全壊流失 42 戸 床上浸水 (半壊含む) 1,392 戸 床下浸水 4,843 戸 氾濫面積 5,176ha
昭和 47 年 7 月 (梅雨前線)	日本海北部まで北上していた梅雨前線が、9 日午後には再び九州北部まで南下し、13 日まで停滞した。10 日午後 3 時頃より局所的に集中豪雨が降った。松浦川上流の大川野では午前 4 時から 7 時までの 3 時間に 98.5mm の降雨であったのを始め、相知では 106mm を記録した。	家屋全壊流失 2 戸 床上浸水 25 戸 床下浸水 451 戸 氾濫面積 398ha
昭和 51 年 8 月 (梅雨前線)	朝鮮半島にあった低気圧が東進するに伴い、前線が南下し、九州北部一帯に局所的な集中豪雨をもたらした。3 日朝方から降り出し、鳥海では 1 時間に 63mm の降雨を記録し、畑川内でも 45mm を記録した。	床上浸水 280 戸 床下浸水 293 戸 氾濫面積 757ha
昭和 57 年 7 月 (梅雨前線)	16 日早朝に低気圧が済州島に近づくと共に、九州北部を通る梅雨前線は次第に活発となり、日中は九州がほぼ前線の雨側に入った。10 時頃にかけては、福岡県北部から西南西に伸びる強い雨雲がほぼ佐賀県北部、西部に停滞した。16 日日雨量は、佐賀県のほとんどの観測所で 100mm を越えた。	床上浸水 131 戸 床下浸水 261 戸 氾濫面積 448ha
平成 2 年 7 月 (梅雨前線)	台風 6 号が弱まった低気圧が九州の西海上に接近するにつれて、梅雨前線の活動も一段と活発となり、九州の中部から北部へと北上し、2 日未明から雨が一段と激しくなった。降雨は午前中にかけて短時間に集中し、鳥海雨量観測所では 3 時から 9 時までの 6 時間に観測史上最大の 247mm を記録した。	家屋全壊流失 3 戸 家屋半壊 11 戸 床上浸水 130 戸 床下浸水 422 戸 氾濫面積 1,623ha
平成 3 年 6 月 (梅雨前線)	低気圧が 9 日夜に朝鮮半島を東進し日本海に向かった。この低気圧から南西に伸びる寒冷前線がゆっくり南下し、21 時に朝鮮半島に達した。この前線に向かって湿った空気が南西風の流れ込みで前線の活動が活発となった。	床下浸水 29 戸 氾濫面積 337ha
平成 5 年 8 月 (低気圧・前線)	九州北部に停滞していた前線は、東シナ海に発生した低気圧が接近するにつれて活動を強めながらゆっくり北上を始めた。しかも前線に向かって湿った南西の風が流れ込み、前線の活動を一段と活発化させたため、佐賀県全域で一時間 40 から 50mm の激しい雨が降った。	床上浸水 7 戸 床下浸水 143 戸 氾濫面積 173ha
平成 18 年 9 月 (低気圧・前線)	台風 13 号の接近に伴う秋雨前線の活発化により、佐賀県北西部に降雨が集中した。特に、徳須恵川流域の畑川内観測所では 1 時間雨量 110mm、3 時間雨量 232mm の記録的な豪雨となった。	床上浸水 54 戸 床下浸水 39 戸 氾濫面積 111ha (速報値)

※出典：「北部九州災害実態調査書」「水害統計」から記載

1 松浦川の概要

1. 2 治水の沿革

1.2.2 治水事業の沿革

(1) 藩政時代

松浦川における治水事業の歴史は古く、慶長 13 年（1607 年）、初代唐津藩主の寺沢志摩守広高により、唐津城の築城に合わせて、松浦川と波多川（現在の徳須恵川）の 2 本の「荒れ川」を 1 本にする大工事から始まりました。これにより、低湿地であった両河口域は良好な水田地域となり、また東に付け替えて新しく出来た河口は良港となって江戸時代から明治時代にかけて繁栄し、現在の唐津市の基礎が作られました。

この松浦川の改修は、城の防御だけでなく、舟運を開き、洪水を防御し、水田を開発しました。この水田を潮風から守るために防風林を植林しており、これが二里の松原（虹の松原）と呼ばれ、現在、国の特別名勝として唐津市の代表的な観光資源となっています。

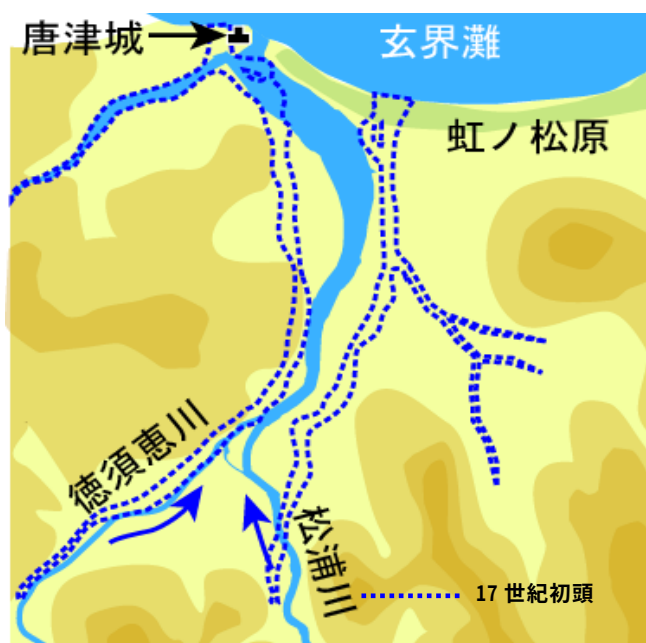


図 1.2.2 藩政時代の河川の付け替え

河川の付け替えにより、①唐津城の防御、②舟運、③水田開発を図りました。

(2) 近年の治水事業

松浦川の本格的な治水事業は、昭和 23 年 7 月洪水、同年 9 月洪水を契機に、昭和 24 年から中小河川改修事業として、松浦橋地点における計画高水流量を $2,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、唐津市山本から河口までの区間及び徳須恵川の唐津市石志から合流点までの区間について、築堤、護岸等の整備を実施しました。

さらに、昭和 28 年 6 月洪水による未曾有の災害を受け、昭和 36 年より直轄事業として松浦橋地点における計画高水流量を $2,700\text{m}^3/\text{s}$ とした改修計画に改訂し、築堤、護岸整備、橋梁架け替えを実施するとともに、河道掘削及びそれに伴う塩水遡上による塩害防止を目的とする松浦大堰の建設に着手し、昭和 49 年に完成しました。



写真 1.2.11 松浦大堰

（松浦川 3/000 付近：唐津市大土井）

その後、昭和 50 年には、昭和 42 年 7 月、昭和 47 年 7 月等の洪水の発生及び流域の開発等を踏まえ、基準地点松浦橋における基本高水のピーク流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $400\text{m}^3/\text{s}$ を洪水調節して、計画高水流量を $3,400\text{m}^3/\text{s}$ とする工事实施基本計画を改定しました。この計画に基づき、駒鳴捷水路^{こまなきしょうすいろ}工事等に着手し流下能力の向上を図り、昭和 62 年には厳木ダムが完成しました。

こうした治水事業を展開してきたものの、平成 2 年 7 月には、家屋全壊流出 3 戸、家屋半壊 11 戸、床上浸水 130 戸、床下浸水 422 戸、浸水面積 1,623ha の甚大な浸水被害が発生しています。このため、中上流部において、築堤、護岸整備、橋梁架け替え等を実施し、流下能力の向上を図ってきました。この結果、松浦川の河川改修は、人家が密集する唐津市街地の区間をはじめ、約 6 割の区間で堤防は概ね整備されてきました。また、橋梁、樋門等多くの構造物も完成しています。

そして、これまでの出水を鑑み、平成 18 年 4 月に「松浦川水系河川整備基本方針」が策定され、基準地点松浦橋における基本高水のピーク流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ 、このうち、厳木ダム等流域内の洪水調節施設により、 $300\text{m}^3/\text{s}$ を調節して計画高水流量を $3,500\text{m}^3/\text{s}$ としました。

現在では、松浦川、徳須恵川及び厳木川の上流部において、築堤の整備および河道掘削等を実施しています。



写真 1.2.12 厳木ダム

(厳木川 14/800 付近：唐津市厳木町)

過去の度重なる洪水に鑑み、昭和 50 年にダムによる洪水調節を含む松浦川水系工事实施基本計画が改訂され、この計画に基づき、厳木ダムが整備されました。



写真 1.2.13 駒鳴捷水路

(松浦川 20/000 付近：伊万里市大川町)

松浦川上流部の駒鳴地区は、川が大きく蛇行し、かつ川幅が狭いために、水の流れが阻害され、たびたび洪水に悩まされてきました。そこで治水対策として、川の水がスムーズに流れるように、できるだけ川をまっすぐに付け替える水路（捷水路）の建設に着手し、30 年もの年月を要して、平成 15 年 3 月暫定完成に至りました。



写真 1.2.14 川西橋

(松浦川 25/200 付近：伊万里市大川町)

平成 2 年 7 月の出水などの被害を受けている伊万里市大川町大川野地区の流下能力の向上を図るため、川西橋の架替に着手し、平成 17 年 3 月に完成しました。

1 松浦川の概要
1. 2 治水の沿革

表 1.2.2 松浦川における治水事業の沿革

西 暦	年号	記事
1949 年	昭和 24 年	・ 松浦川改修全体計画 計画高水流量：2,100m ³ /s
1961 年	昭和 36 年	・ 直轄河川改修に編入
1963 年	昭和 38 年	・ 総体計画書策定 計画高水流量：2,700m ³ /s
1965 年	昭和 40 年	・ 新河川法施行
1967 年	昭和 42 年 5 月	・ 松浦川一級河川に指定
	昭和 42 年 6 月	河川名 改修計画区間 松浦川 0k000～25k000+100 徳須恵川 0k000～5k800 厳木川 0k000～5k400+80 ・ 松浦川水系工事実施基本計画施行 基本高水のピーク流量：2,700m³/s（松浦橋） 計画高水流量：2,700m³/s（松浦橋）
1968 年	昭和 43 年	・ 国管理区間の区間延長 松浦川 25k600～31k400
1973 年	昭和 48 年	・ 国管理区間の区間延長 徳須恵川 5k800～14k400
1974 年	昭和 49 年 3 月	・ 松浦大堰 完成
1975 年	昭和 50 年	・ 松浦川水系工事実施基本計画施行（第 1 回改定） 基本高水のピーク流量：3,800m ³ /s（松浦橋） 計画高水流量：3,400m ³ /s（松浦橋）
1976 年	昭和 51 年	・ 国管理区間の区間延長 厳木川 5k400+80～14k600
1979 年	昭和 54 年	・ 国管理区間の改修計画策定
1983 年	昭和 58 年	・ 駒鳴捷水路 暫定通水
1987 年	昭和 62 年	・ 厳木ダム 完成
1988 年	昭和 63 年	・ 松浦川水系工事実施基本計画施行（第 2 回改定） 基本高水のピーク流量：3,800m ³ /s（松浦橋） 計画高水流量：3,400m ³ /s（松浦橋） 横断形・HWL のみ変更
1989 年	平成元年	・ 国河川改修計画（変更）
2003 年	平成 15 年	・ 駒鳴捷水路 暫定完成
2006 年	平成 18 年	・ 松浦川水系河川整備基本方針策定

1.3 利水の沿革

松浦川は、古くから農業用水に利用され、水道用水、工業用水、発電用水などの高度な利用がなされています。

松浦川中流や徳須恵川では、農業用水の利用のため、藩政時代に大黒井堰、馬ン頭伏せ越し、萩の尾堰及び岩坂井堰などが築造され、現在でも農地を潤しています。また、厳木川沿いには本山堰、町切堰をはじめ、多くの取水堰があります。



写真 1.3.1 萩の尾堰

(松浦川 31/400 付近：武雄市若木町)



写真 1.3.2 馬ン頭伏せ越し

(松浦川 30/000 付近：伊万里市松浦町)



写真 1.3.3 岩坂井堰

(徳須恵川 13/800 付近：伊万里市南波多町)



写真 1.3.4 町切堰

(厳木川 7/400：唐津市厳木町)

1 松浦川の概要

1. 3 利水の沿革

現在、松浦川の水は、流域外を含めて農業用水として約 8,700ha の農地でかんがいに利用され、水道用水としては、唐津市や多久市等で、工業用水としては唐津市内で利用されています。また、水力発電としては、厳木川の厳木発電所、厳木第 2 発電所の他、天山ダムを上ダム、厳木ダムを下ダムとする揚水式天山発電所により、最大出力約 61 万 kW の電力供給が行われています。

厳木ダムについては、昭和 35 年、昭和 42 年及び昭和 43 年等の渇水被害を契機に、恒久的対策が望まれたことと諸産業の発展と生活水準の向上に伴う電力供給の増大に対処するため、発電計画も併せて松浦川総合開発計画の一環として整備されました。



図 1.3.1 主要な利水施設位置図

表 1.3.1 松浦川における利水の沿革

西暦	年号	計画の変遷	備考
1550 年	天文 19 年	萩の尾堰の建設	石組みに、上流側に差し込む形の積み方が見られ、他の堰と石組みの発想が異なります。 既存する堰は、段積みしている堰の構造、石組みの手法から江戸後期のものと考えられています。
1611 年	慶長 16 年	馬ノ頭伏せ越しの建設	伏せ越しは、水圧により高低差のある地形でも水を送ることができます。萩の尾堰から水路を引き、馬ノ頭で松浦川の下に水路をくぐらせ、反対側(上原、桃ノ川地区)に水をわき出させる仕掛けです。
1633 年	寛永 10 年	大黒井堰の建設	1595 年、寺沢志摩守の指示で工事が始まり、完成間近に洪水によって流されてしまいましたが、大川野の健福寺の僧侶田代可休の進言により完成しました。
1600 年頃	江戸時代前期	岩坂井堰の建設	岩坂井堰の土砂吐き口に見られる石積みの手法は、石井樋（大和町）の大井手堰復元の手本となっています。
1600～1700 年頃	慶長～元禄	町切堰の建設	現在のコンクリート堰は、S.43 に改修されたものです。 堰、用水路、魚道の接点付近の用水路上に、「龍骨」と刻まれた巨石が架かっており、江戸前期に切り出して据えられたものと考えられています。
1974 年	昭和 49 年	松浦大堰の建設	堰 長：318.7m（可動部 210.0m） 目 的：塩水遡上防止
1979 年	昭和 54 年	伊岐佐ダム※の建設	形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：58.5m 堤 頂 長：203m 集水面積：9.6km ² 有効貯水容量：1,660 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水
1984 年	昭和 59 年	平木場ダム※の建設	形 式：重力式コンクリートダム（脇：アース） 堤 高：29.5（28.2）m 堤 頂 長：117（390）m 集水面積：2.24km ² 有効貯水容量：1,024 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水
1987 年	昭和 62 年	巖木ダムの建設	形式：重力式コンクリートダム 堤高：117.0m 堤 頂 長：390.4m 集水面積：33.70km ² 有効貯水容量：11,800 千 m ³ 目的：洪水調節、不特定用水、水道用水、工業用水、発電用水
1988 年	昭和 63 年	本部ダム※の建設	形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：42.1m 堤 頂 長：130m 集水面積：1.36km ² 有効貯水容量：1,090 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水
2002 年	平成 14 年	狩立ダム・日ノ峯ダム※の建設	【狩立ダム】 形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：28.4m 堤 頂 長：177m 集水面積：1.90km ² 有効貯水容量：1,243 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水 【日ノ峯ダム】 形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：28.4m 堤 頂 長：112m 集水面積：0.35km ² 有効貯水容量：447 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水
建設中		井手白川ダム※の建設	形 式：重力式コンクリートダム 堤 高：43.7m 堤 頂 長：235m 集水面積：4.27km ² 有効貯水容量：2,030 千 m ³ 目 的：洪水調節、不特定用水、水道用水

※：補助ダム